

【京都府船井郡京丹波町質美 地内】

数 量 計 算 書

京 丹 波 町 水 道 課

目 次

1. 管渠工.....	1
2. 組立マンホール工	5
3. 付帯工.....	9

1. 管 渠 工

数 量 総 括 表

[illegible]

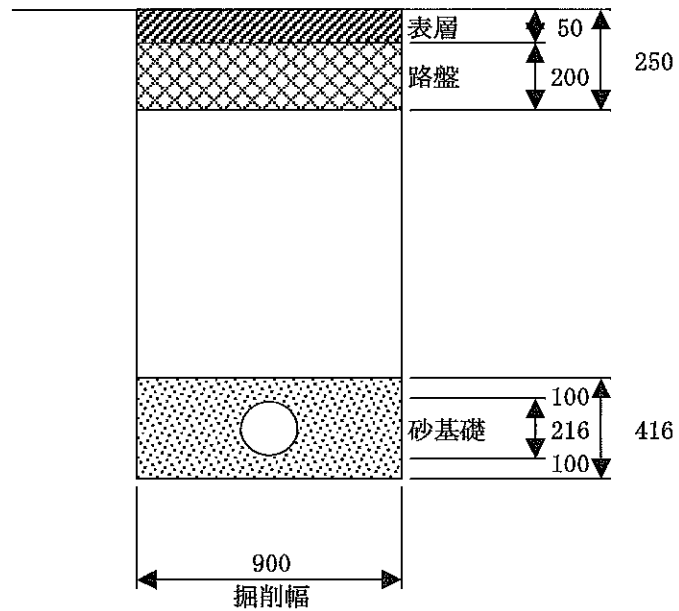
管渠数量计算

500=500 A1GOU=A1 YGOU=Y 0GOU=0 1GOU=1 2GOU=2 塩ビ=300

[illegible]

数量計算書

名称：土工控除、砂基礎



1m当り

[illegible]

2. 組 立 マ ン ホ ー ル 工

数 量 総 括 表

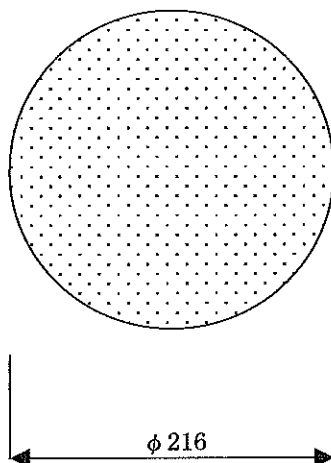
[illegible]

マンホール計算書(組立1号マンホール)

[illegible]

数量計算書

名称：既設管口閉塞工



1式当り

[illegible]

3. 付 帶 工

舗装数量計算書

アスファルト舗装

位置	表層工 (5cm)			路盤工 (20cm)			舗装 取壊	残塊 処分(m³)	カッター	摘要
	延長 (m)	幅員 (m)	面積 (m²)	延長 (m)	幅員 (m)	面積 (m²)				
No.0		0.90			0.90			0.05		
No.1	40.00	0.90	36.00	40.00	0.90	36.00	36.00	1.80	80.00	新設管理設部
No.1		0.90			0.90					
No.2	16.00	0.90	14.40	16.00	0.90	14.40	14.40	0.72	32.00	//
No.2		0.90			0.90					
No.3	16.00	0.90	14.40	16.00	0.90	14.40	14.40	0.72	32.00	//
No.3		0.90			0.90					
No.4	21.00	0.90	18.90	21.00	0.90	18.90	18.90	0.95	42.00	//
No.4		0.90			0.90					
No.5	2.00	0.90	1.80	2.00	0.90	1.80	1.80	0.09	4.00	//
M2-38		0.90			0.90					
M2-37	5.50	0.90	4.95	5.50	0.90	4.95	4.95	0.25	11.00	既設管撤去部
M2-37		0.90			0.90					
M2-36	22.00	0.90	19.80	22.00	0.90	19.80	19.80	0.99	44.00	//
M2-36		0.90			0.90					
M2-35	32.00	0.90	28.80	32.00	0.90	28.80	28.80	1.44	64.00	//
M2-35		0.90			0.90					
M2-34	22.00	0.90	19.80	22.00	0.90	19.80	19.80	0.99	44.00	//
M2-34		0.90			0.90					
M2-33	20.00	0.90	18.00	20.00	0.90	18.00	18.00	0.90	40.00	//
計	196.50		176.85	196.50		176.85	176.85	8.85	393.00	

既設人孔撤去工 数量計算書

組立1号マンホール

4 箇所

名 称		M2-34	M2-35	M2-36	M2-37	合 計
マンホール深(m)		1.630	1.710	1.700	1.430	6.470
鉄蓋		1	1	1	1	4
調整高		0.06	0.07	0.03	0.06	0.22
リング	100		1	1	1	3
	150	1				1
斜壁	450		1	1	1	3
	600	1				1
躯体	900	1			1	2
	1200		1	1		2
底版	130	1	1	1	1	4

※上記既設人孔組合せは現地調査による

平均マンホール深 $6.470 \div 4 = 1.618 \text{ m}$

残塊処分

調整高	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 = 0.245 \text{ m}^3 / \text{m}$	
	$0.245 \times 0.22 =$	0.05
調整リング 100	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 \times 0.10 = 0.025 \text{ m}^3$	
	$0.025 \times 3 =$	0.08
調整リング 150	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 \times 0.15 = 0.037 \text{ m}^3$	
	$0.037 \times 1 =$	0.04
斜壁 450	$(0.82^2 - 0.60^2 + 1.05^2 - 0.90^2) \times \pi / 8 \times 0.45 = 0.107 \text{ m}^3$	
	$0.107 \times 3 =$	0.32
斜壁 600	$(0.82^2 - 0.60^2 + 1.05^2 - 0.90^2) \times \pi / 8 \times 0.60 = 0.143 \text{ m}^3$	
	$0.143 \times 1 =$	0.14
躯体 900	$(1.05^2 - 0.90^2) \times \pi / 4 \times 0.90 = 0.207 \text{ m}^3$	
	$0.207 \times 2 =$	0.41
躯体 1200	$(1.05^2 - 0.90^2) \times \pi / 4 \times 1.20 = 0.276 \text{ m}^3$	
	$0.276 \times 2 =$	0.55
底版 130	$(1.10^2 - 0.50^2) \times \pi / 4 \times 0.13 = 0.098 \text{ m}^3$	
	$0.098 \times 4 =$	0.39
合計		<u>1.98 m³</u>

既設人孔改造工 数量計算書

組立1号マンホール(改造) 2 箇所

名 称	M2-38			M2-33			備考
	改造前	→	改造後	改造前	→	改造後	
マンホール深(m)	2.104	→	1.804	1.570	→	1.280	
鉄蓋	1	→	1	1	→	1	流用
調整高	0.014	→	0.014	0.060	→	0.020	布設替え
リング	50	→	1	0	→	0	↓
	100	→	0	1	→	0	↓
	150	→	0	0	→	1	↓
斜壁	300	→	1	0	→	1	↓
	600	→	0	1	→	0	↓
躯体	900	→	0	1	→	1	流用
	1500	→	1	0	→	0	↓
底版	130	→	1	1	→	1	↓

※上記M2-38の人孔組合せは想定、M2-33は現地調査による

改造高

改造前

M2-38	$0.110 + 0.014 + 0.050 + 0.600$	=	0.774
M2-33	$0.110 + 0.060 + 0.100 + 0.600$	=	0.870
平均	$(0.774 + 0.870) \div 2$	=	0.822 m

※『既設人孔撤去工』に計上

改造後

M2-38	$0.110 + 0.014 + 0.050 + 0.300$	=	0.474
M2-33	$0.110 + 0.020 + 0.150 + 0.300$	=	0.580
平均	$(0.474 + 0.580) \div 2$	=	0.527 m

※『組立マンホール工』に計上

残塊処分

調整高	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 = 0.245 \text{ m}^3 / \text{m}$	
	$0.245 \times (0.014 + 0.060) =$	0.02
調整リング 50	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 \times 0.05 = 0.012 \text{ m}^3$	
	$0.012 \times (1 + 0) =$	0.01
調整リング 100	$(0.82^2 - 0.60^2) \times \pi / 4 \times 0.10 = 0.025 \text{ m}^3$	
	$0.025 \times (0 + 1) =$	0.03
斜壁 600	$(0.82^2 - 0.60^2 + 1.05^2 - 0.90^2) \times \pi / 8 \times 0.60 = 0.143 \text{ m}^3$	
	$0.143 \times (1 + 1) =$	0.29

合計 0.35 m³

※『既設人孔撤去工』に計上

土留工(管路布設工)

掘削深 (m)	矢板工			矢保工			土留工 計	施工延長	賃料	重量
	矢板長 (m)	軽量鋼矢板		設置撤去	軽量鋼矢板					
		設置撤去	賃料 (Ⅱ、Ⅲ)		設置撤去	賃料 (Ⅱ、Ⅲ)				
1.8	2.0							2		0.1184
2.3	2.5							40		0.7252
2.8	3.0							37		0.93798
3.3	3.5							16		0.93219
								95		2.714

土留工(既設管撤去工)

掘削深 (m)	矢板工			支保工			土留工 計	施工延長	賃料	重量
	矢板長 (m)	軽量鋼矢板		設置撤去	軽量鋼矢板					
		設置撤去	賃料 (Ⅱ、Ⅲ)		設置撤去	賃料 (Ⅱ、Ⅲ)				
1.8	2.0							101		0.72816
								101		0.728

重量 =

3.442 t

基本運賃 1t車30kmまで
積込、取卸
計

円/t

土留工法

掘削深	矢板種別	矢保工種別	矢保工段数
1.8～2.8	軽量鋼矢板Ⅱ型(250*5) φ=2.0～3.0m	アルミ製 腹起し(75*120*4000) 水圧サポーク(450～650)水圧手動ポンプ(150)	～2.0 1
2.8～3.3	軽量鋼矢板Ⅲ型(333*5) φ=3.5～4.0m	アルミ製 腹起し(110*130*4000)	2.0～3.5 2
3.3～3.8		水圧サポーク(450～650)水圧手動ポンプ(150)	

軽量鋼矢板資料

矢板種別 (mm)	掘削深 (m)	矢板長 (m)	1口当り矢板資料			1現場(標準使用回数10回当り)矢板資料		
			枚数 (枚)	延長 (m)	重量 (t)	重量 L*単位重量=W	材料 (円/口) W*S=R	材料 (円) W*T=
B	H	H+0.2=ℓ	10*2/B=N	N*ℓ=L			R*10=	Σ
II型(250)	1.8	2.0	80	160	2.368			Σ*1/200=
"	2.3	2.5	80	200	2.960			
"	2.8	3.0	80	240	3.552			
"	3.3	3.5	80	280	4.144			
III型(333)	3.3	3.5	60	210	4.053			
"	3.8	4.0	60	240	4.632			

単位当り資料(1~3ヶ月)

単位重量 II型(250*5) 0.0148t/m III型(333*5) 0.0193t/m

1口(20m)当り矢板設置使用標準日数 2日

1現場当り矢板標準使用回数 10回(1現場標準施工延長 20m/回*10回=200m)

1現場当り修理費及び消耗費(軽作業)

軽量金属支保工資料

腹起し種別 (mm)	掘削深 (m)	支保工段数 (段)	1口(20m)当り支保工資料(円/口)			1現場(標準使用回数10回)支保工資料			
			支保工本数 (本)	アルミ製腹起し N*A=	アルミ製水圧 サポート N*B=	水圧手動ポンプ C	材料 (円) R*10=	計 (円) Σ	1m当り (円/m) Σ*1/200=
75*120*4000	H<2.0	1	10						
"	2.0≤H<3.0	2	20						
110*130*4000	3.0≤H<3.5	2	20						
"	3.5≤H<4.0	3	30						

単位当り資料

アルミ製腹起し(75*120*4000mm)

アルミ製腹起し(110*130*4000mm)

アルミ製水圧サポート(450~650mm)

水圧手動ポンプ(タンク水量15ℓ)

1口(20m)当り(1段当り)支保工本数 10本(50本/100m)

1口(20m)当り支保工設置使用標準日数 2日

1現場当り支保工標準使用回数 10回

(1現場標準施工延長 20m/回*10回=200m)